

## 城壁の再築：霊の戦い ネヘミヤ 6:15-19

1. また、そのころ、ユダのおもだった人々は、トビヤのところにひんぱんに手紙を送っており、トビヤも彼らに返事をしてきた。それは、トビヤがアラフの子シェカヌヤの婿であり、また、トビヤの子ヨハナンもベレクヤの子メシュラムの娘を妻にめとっていたので、彼と誓いを立てていたものがユダの中に大ぜいいたからである。彼らはまた、私の前でトビヤの善行を語り、私の言うことを彼に伝えていた。トビヤは私をおどそうと、たびたび手紙を送って来た。(6:17-19)

- a. これまで城壁の工事にあたっては敵からの妨害があり、内輪からも金銭を乱用しようとする者が出て来たことを見てきたが、今度は神の敵であるトビヤに誓いを立てたユダのおもだった人々が出てくる。(ちなみに「トビヤ」という名前の意味は「ヤハウエはすばらしい」という意味である。)
- b. 敵はフェアな戦い方をしない。使える人はどんな人でも使い、特にあなたが信頼している人や好きな人があなたに背を向けるように仕向けてくる。記念すべき偉業が完成し、神の民の人生が新たな段階に入るその時にも敵は種を蒔き次の攻撃のチャンスを狙っている。
- c. 神と共に歩むことは決していつもつらかったり、困難だったり、孤独だったり、苦痛なものではないが、墮落したこの世の中に生きる時、往々にしてそのようなことも経験しなければならない。けれども決してあきらめず耐え忍び、信仰と忠実さをもって戦い抜こう。

2. こうして、城壁は五十二日かかって、エルルの月の二十五日に完成した。私たちの敵がみな、これを聞いたとき、私たちの回りの諸国民はみな恐れ、大いに面目を失った。この工事が、私たちの神によってなされたことを知ったからである。(6:15-16)

- a. 敵はネヘミヤに敬意を払わず繰り返し攻撃していたが、ネヘミヤの一撃で自信を完全に打ち砕かれ戦いの流れが変わった。
- b. ネヘミヤがエルサレムの意気消沈した状況、崩された城壁、焼かれた門のことを初めて聞いた時以来、城壁完成のこの時まで非常に疲れる道のりだったに違いない。
- c. 実際城壁を築くのに要した日数は52日だったが、それは常に内外からの攻撃と戦いストレスに満ちた52日間だったはずである。
- d. 神が与える仕事を成し遂げるのは多くの場合易しいことではなく、忠実でいるためには信仰が欠かせない。しかしそれが毎回敵に打撃を与えるのである。
- e. ネヘミヤと熱心な民の努力によって城壁はエルルの月の25日に完成したが、これはユダヤ人が神の創造の第一日目と認識している日と一致している。おそらくこれは偶然の一致ではなく神の摂理と完全なタイミングによるのであろう。私たちが神に忠実であれば、神はお与えになる仕事を完成させてくださる。
- f. あらゆる手を使って城壁の建築を妨害しようとしたイスラエルの敵の目には、この神の業を完成させるのは不可能なことに見えたであろう。
- g. しかし城壁が完成し、敵もこれは神の手による以外の何ものでもないということを悟り、落胆すると同時に神への畏れが生じたことだろう。このように仕事をやり遂げること(説教を仕上げることや聖書通読なども含め)がサタンをあつさりさせる一撃となる。